

## 中等部・高等部

### 共生学

#### 竿代誠二

2021 年度からスタートした共生学も 4 年目を迎えた。共生学では、自由学園の掲げる共生共学の中の「人と人の共生」「一人一人がかけがえのない存在であるという意味での共生」「人と自然との共生」を「平和・人権・環境」という3つのキーワードに落とし込み、様々な授業を展開してきた。今年度は、毎年の振り返りをもとに、修正を加えて講座とプロジェクトを展開することができた。

本論では、2024 年度共生学の変更点、内容、今後の展望について述べる。

#### 1. 共生学の変更点

共生学は、前期に行われる「講座」と後期に行われる「プロジェクト」の2つに分かれており、前期では主にインプットを、後期にはアクションを目的としている。前期の講座に関しては、教員が「平和・人権・環境」の3つのテーマの中から、自身の専門教科にとらわれず、得意な分野や興味のあるジャンルから自由にさまざまな講座を開設してきた。振り返りとしては、教員が自由に講座を展開できる一方、生徒の知識の深まりという点が弱くなってしまうという反省点があった。そこで今年度は、平和・人権・環境の3グループに教員を分け、それぞれのグループで講座をつくり、数回にわたり生徒に講座を実施することとした。これにより、授業に厚みが生まれ、数回の講座によって知識を深めることにも繋がった。

#### 2. 講座について

前述のように、教員は「平和・人権・環境」の3つのグループに分かれ、そのグループ全員で講座を作成した。一人一人がそれぞれのテーマについて考えていることを持ち寄り、どうしたら生徒にそれらを落とし込めるかを考えながら、1つのテーマにつき3回分の講座を作成した。生徒たちは3回連続で講座を受けることにより、そのテーマについてより深く知ることができ、単発で終わっていた昨年度までの講座より考える時間が増えたように感じた。また、教員にとっても、自分自身だけで講座を作成するのではなく、グループ全体で講座をつくることから、今までよりも厚みが増し、濃厚な講座を作り上げることができた。生徒たちは3回連続の講座のあと、また別のテーマの講座をローテーションしながら受けることで、それぞれのテーマを深めつつ

も、幅広い分野の知識を吸収することができた。

#### 3. プロジェクトについて

後期からは、インプット中心だった前期とは変わり、得た知識から何ができるかアクションを起こしていくプロジェクトが展開された。全22プロジェクトが立ち上がり、生徒はアンケートで自分が希望するプロジェクトを選んで、活動に参加した。これらの活動の成果は3月に行われる学びの共有会「まなコレ」でプロジェクト毎に発表した。プロジェクトの在り方は多様で、学内での調べ学習が中心のところ、学外に毎回のよう飛び出して調査やインタビューを重ねるところ、工作にひたすら時間をかけるところなど、それぞれのプロジェクトの色が垣間見えた。また、発表の機会では、ステージでの成果報告、ポスターセッション、ワークショップ、演劇など、多様な発表形態が見られ、来場者と一体になって学びを共有することができた。

#### 4. 今後の展望

講座に関しては、学年ごとに学習内容にグラデーションをつけ、学びのステップアップができるようにすることを考えている。また、講座とプロジェクトのつながりをより強化し、自分たちの学びがどう社会に役立てられるのかを強く意識できるようにしたい。

## 2024年度 共生学 プロジェクト一覧

|                                                                                                                                                                           |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 担当：高田貴                                                                                                                                                                    |
| タイトル：学園の木の枝で作ろう（2024年度版）                                                                                                                                                  |
| 概要：<br>学園の木の枝を麻の紐で繋げるだけで、形を作ります。今回は、人が入れるテントやシェルターにも挑戦したいと考えています。                                                                                                         |
| こんな生徒を求む!!：<br>冬、外での作業が多くなりますが、その中で積極的に、失敗を恐れず、挑戦を楽しむ人を求めています。                                                                                                            |
| 担当：小松愛香                                                                                                                                                                   |
| タイトル：うみぷらプロジェクト                                                                                                                                                           |
| 概要：<br>今年は「海洋プラスチック問題」に注目して活動します。自由学園から海までは少し距離がありますがフィールドワークも実施予定です（寒いので海には入りません）。この問題はすぐに解決しません。かなりモヤモヤした気持ちになると思います。それでも海のために「自分にできそうなこと」に向き合いたい人と、一緒にモヤモヤしながら活動したいです☆ |
| 注意事項<br>※成果発表として、まなこれで小学生対象ワークショップを開催してもらいます。メンバー全員に関わってもらうのでご了承ください。<br>※校外学習やワークショップ参加、映画視聴などにかかる費用は受益者負担です。                                                            |
| こんな生徒を求む!!：<br>海が好きな人！環境問題に対して何かしてみたい人！人任せにならない人！すぐに答えの出ないモヤモヤ感に半年間耐えられそうな人！                                                                                              |

|                                                                                                                                   |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 担当：泉健也                                                                                                                            |
| タイトル：人に余白は必要か                                                                                                                     |
| 概要：<br>忙しいこの世の中にあえて意図的に空白をつくと。人は心身面でどのような影響が出るのか。                                                                                 |
| こんな生徒を求む!!：<br>何もしないからといって好き勝手に遊べるわけではありません。毎日どの様に生活したか記録をとるのでそういうのが欠かさずできる人を募集します!                                               |
| 担当：嶋田康則                                                                                                                           |
| タイトル：楽しく学ぼうコミュニケーション!                                                                                                             |
| 概要：<br>さまざまなアクティビティを通して、たのしくコミュニケーションインついて学びます。                                                                                   |
| こんな生徒を求む!!：<br>困っている人を上手に助けたい、自分のコミュニケーション能力に磨きをかけたい、将来人と関わる仕事に就きたい、新しい友達を作りたいなどを考えている人。                                          |
| 担当：山田恵子                                                                                                                           |
| タイトル：運動・スポーツでつながろう!                                                                                                               |
| 概要：<br>身近なスポーツや体操、運動、またオリンピックや体操会、運動会等の競技・発表を 通し、人と関わる身体運動が互いの理解や平和をつなぐ一歩になることを学び実践していきます。高等部生には「日本ピエール・ド・クーベルタンニュースフォーラム」を紹介します。 |
| こんな生徒を求む!!：<br>身体を動かすことが楽しいと感じた事のある人、または苦手でもそうなりたいと思う人、運動やスポーツに興味のある人。                                                            |
|                                                                                                                                   |

|                                                                                                                                                                                                                                                                |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 担当：近藤紫織、齋藤凜太郎                                                                                                                                                                                                                                                  |
| タイトル：世界に一つだけの図書館づくり                                                                                                                                                                                                                                            |
| 概要：<br>図書館の可能性をとことん追求して、まなコレ（うまくいけばその後も）で実践してみよう！というプロジェクトです。自由学園は図書館もラーニングコモンズも持っていますね。図書館ってどんな場所だと思っていますか？思い込んでいますか？今、「住みたい」と言われる図書館や「居場所」としての図書館が街中では注目されています。学校図書館でもアイデア次第でいろいろできそうですね、一緒に考えたいです。図書館そのものを考えることは実は「平和」を考えることと直結します。楽しんで、図書館の可能性を追求してみましょう！！ |
| こんな生徒を求む!!：<br>校外学習が 3 回くらいあります。チャットをきちんと見て、事前準備ができる人求む！アイデアを出そうと試みる姿勢を忘れない人、時間を守る人、日常の学びとつなげようと思う人、図書館に普段行く人・行かない人！                                                                                                                                           |

|                                                                                                                    |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 担当：千葉友貴                                                                                                            |
| タイトル：暗号技術から世界を知ろう！                                                                                                 |
| 概要：<br>このプロジェクトでは、さまざまな暗号技術を学びながら、それを使った謎解きゲームを生徒たちで作り上げます。各暗号の背景や実際の利用例を学び、最終的にそれらの知識を使って、校内で実施できる謎解きゲームをデザインします。 |
| こんな生徒を求む!!：<br>暗号や謎解きに興味関心があり、積極的に参加する意欲がある人                                                                       |

|                                                                                                                                                                                                                       |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 担当：中村知子                                                                                                                                                                                                               |
| タイトル：身近な色彩を探ってみよう！                                                                                                                                                                                                    |
| 概要：<br>私たちの身近にはたくさんの色彩があふれています。それぞれの色のもつイメージとはどんなものでしょうか？また誰にでも見やすいユニバーサルな色の組み合わせとはどんなものでしょうか？実際に使われている身近な例を観察しながら、様々な色の特性や、色がもたらす感情効果について考えていきます。さらに学んだことを生かして、色彩演習（色をテーマにした作品作り）や、一人一人に似合う服装を考えたり、色彩を生活に生かす実践を試みます。 |
| こんな生徒を求む!!：<br>色とは何か、その特性を知り色を上手に使いこなしたい！生活の中の身近な色について考えてみたい！色をテーマにした作品を作りたい！自分らしい色をみつきたいなど、色に興味のある人を歓迎します。                                                                                                           |
| 担当：入海英里子、濱野稔子                                                                                                                                                                                                         |
| タイトル：WATS 2024 Let's play 人形劇                                                                                                                                                                                         |
| 概要：<br>今年の WATS（わたしとあなたでつくるやさしい社会）は人形劇をやります！ゼロからつくります。人形劇の人形も、テーマも台本も、メンバーのみんなで考えます。最終的に舞台上で発表したいです。                                                                                                                  |
| こんな生徒を求む!!：<br>ものづくりが好き。表現が好き。個人作業好き。チームで作業するのも好き。人形劇に関心がある。舞台づくりに関心がある。発表するのも楽しみ♪そんなあなたを待ってます。                                                                                                                       |

担当:鈴木雄紀

タイトル:未来をつなぐデジタルリテラシー ～人権と平和を意識したデバイス・SNS 活用のかたち～

概要:

現代の中高生にとって、スマホや PC、SNS などのデジタルデバイスは、日常生活に欠かせないツールとなっています。しかし、その便利さの裏には、プライバシーの侵害や差別的な発言、偽情報の拡散といった課題も存在します。また、生成系 AI の登場により、情報の取得や発信のあり方が大きく変化している中、デジタルツールの使い方についてより深く考えることが求められています。本プロジェクトでは、デバイスや SNS、生成系 AI を「人権」や「平和」という視点から捉え直し、正しいリテラシーを育むことを目指します。デジタルツールの利用におけるリスクや倫理的な問題について調査・議論し、自分たちなりの使い方のルールや提言を作成・発表します。技術の利便性とリスクを理解し、より健全で持続可能なデジタル社会の実現に貢献することを学びます。

こんな生徒を求む!!:

- ・探求心があり、自ら学ぶ意欲を持った人
- ・多様な視点を尊重し協働できる人
- ・社会課題に関心を持ち、解決に向けて駆動したい人
- ・テクノロジーを活用する意欲のある人

|                                                                                                                                                            |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 担当：大石健斗、高野慎太郎                                                                                                                                              |
| タイトル：インクルーシブな社会を目指して～ドラマ「ひだまりが聴こえる」から考える～                                                                                                                  |
| 概要：<br>インクルーシブな社会とは、どのような社会でしょうか。本プロジェクトでは、他者理解をキーワードに、インクルーシブな社会の在り方について考えます。題材として突発性難聴と同性愛を描いたドラマ「ひだまりが聴こえる」を扱い、当事者へのインタビュー、フィールドワークなども行いながら、表題について考えます。 |
| こんな生徒を求む!!：<br>授業の進み具合によっては、授業時間以外の時間にも補講や自由参加のフィールドワークを実施する可能性がありますので、ご承知おきください。                                                                          |

|                                                                                                                                                                           |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 担当：松坂政広                                                                                                                                                                   |
| タイトル：夫婦別姓のコンセンサスを対話で得られるか？                                                                                                                                                |
| 概要：<br>1996年当時、社会が注目した「夫婦別姓」の議論が、近年再び注目されています。共生社会に生きるわたしたちの間でも、1から問いかけて、問い直して着地点を、コンセンサスを見出し得るものかを検討したいと思います。そのプロセスに当たっては、対話を重視します。対話は、話し合った結果、自分が変わることを楽しみにしてなされるものですね。 |
| こんな生徒を求む!!：<br>一緒にとことん、あるいは、静かにあきらめずに問い掛け続ける生徒さんの参加を！                                                                                                                     |

担当：渡邊祐太、三輪恭子、草刈康代

タイトル：対話のレッスン～他者を知り、自分を知る

概要：

これまでの共生学「人権」では、人権とは「その人らしさ」を大切にすることだと学んできました。本プログラムでは、そこから一歩進み、「対話」を通じて、「その人らしさ」「自分らしさ」と出会えるような様々なレッスンを用意しています。具体的には、「対話のワークショップ」「好きなもののマップの作成」「読書会」「映画鑑賞+感想共有会」「インタビューのレッスン」「文章修行」「ポートレート撮影講座」などを予定しています。最終的には、受講者全員がお互いの「インタビュー記事」を作成、発表することを目指します。皆さんからのアイデアも積極的に反映しながら進行して行きたいと思っています。

こんな生徒を求む!!:

コミュニケーションに興味がある人ならどなたでも大歓迎。おしゃべりが得意な人も苦手な人も、自分らしい対話の方法について一緒に考えていきましょう。



|                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 担当：橘隼人                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| タイトル：これからの男の子たちへ                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| 概要：<br>『これからの男の子たちへ』（太田啓子著 大槻書店 2020）を輪読し、有害な男らしさやジェンダーバイアス、ホモソーシャルについて学びを深める。書籍を通して学んだことやそこで得られた疑問をもとにフィールドワークを行い、男女問わず互いに対等な関係を構築するために何ができるのかを考える。書籍の中で大切にされていることを他者に広めることをゴールとするため、最終的には在校生保護者や生徒向けのワークショップや授業を提案する予定でいる。環境問題をテーマにコーヒーについても学びたいと考えていたため、ワークショップや読書の合間にコーヒーについても共に学びたいと考えています。 |
| こんな生徒を求む!!：<br>・今の社会や日常生活の中で生きづらさを感じている人<br>・男子や女子など集団に対して興味関心や問題意識を持っている人<br>・ディスカッションに積極的に参加し、意見交換から学びたいと考える人<br>・割り当てられた回はきちんとスライドとレジュメを準備して発表を行うことができる人                                                                                                                                      |
| 担当：中川李梨子、中本理櫻                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| タイトル：東久留米におじゃマップ                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| 概要：<br>東久留米のまちを歩いて、人と出会って、探検してみる！オリジナルガイドブックを作ろう！                                                                                                                                                                                                                                                |
| こんな生徒を求む!!：<br>探検したい人、いろんな人と関わりたい人                                                                                                                                                                                                                                                               |

|                                                                                                                                         |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 担当:真野啓之                                                                                                                                 |
| タイトル:温故知新!東天寮と清風寮をもっと寮にしよう!                                                                                                             |
| 概要:<br>どのように寮ができたか、どのように運営されてきたか、いまの寮の強みと弱みは何か、国内外にはどのような寮があるか等々、皆で調べて、ざっくばらんに話して、可能であれば他校の寮見学にも行って、もっと良い寮をつくるにはどうすれば良いか考えて、一緒に実行しましょう! |
| こんな生徒を求む!!:<br>通学生、寮生問わず、積極的に関わることのできる人を募集します。                                                                                          |

|                                                                                                                                                                                                                                                        |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 担当:岩本晃子                                                                                                                                                                                                                                                |
| タイトル:女声合唱から考える平和な音環境づくり                                                                                                                                                                                                                                |
| 概要:<br>共学化で学園で取り組む音楽は、「混声」が日常となりましたが、同声のよさを理解する時間を担保することで、より平和な音環境が生まれると考えます。今回は「女声」にフォーカスします。性別は問いませんが、女声合唱の音域が出るほうが実践の際には好ましいかもしれません。今の合唱界は「おかあさんコーラス」や「女声合唱」に男性が入るのは当たり前の風潮となっています。女声・男声・混声など多角的に合唱を捉え、平和をとともに考えましょう。男声合唱から考える会は、別の機会に出来たらいいなと考えます。 |
| こんな生徒を求む!!:<br>静と動どちらもの音環境を尊重する気持ちのある人。他者の音環境を阻害しない人。                                                                                                                                                                                                  |

|                                                                                                                                                                                                                           |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 担当：犬塚夏紀、佐伯美和                                                                                                                                                                                                              |
| タイトル：あそびは世界を平和にする                                                                                                                                                                                                         |
| 概要：<br>身近な平和として「あそび」を挙げる人は多いですが、現在子どもたちの遊び場は失われつつあります。平和だから遊べるのでしょうか？「あそび」に必要な要素とは何でしょうか？ このプロジェクトでは、「あそび」とは何か？という視点で、実際に学園内で遊んでみたり、プレーパークなどの遊び場を訪問します。そして「あそびは世界を平和にする」という仮説をみんなで探求していきたいと思っています。みんなで遊び心にあふれた時間を過ごしましょう！ |
| こんな生徒を求む!!：<br>思い切り遊びたい人、遊び心を持った人、遊び心を育てたい人                                                                                                                                                                               |

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 担当：鈴木裕大                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| タイトル：スクワット×内的平和                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| 概要：<br>【トライアウト実施予定です※下部参照】<br>バーベルの前には、どんな人も等しく無力です。どんな力持ちも、バーベルの重さを上げていく/回数を増やしていけば、いずれ上がらなくなります。そういった意味で、トレーニング初心者も熟練者でもどんな人もバーベルの前には等しく無力と考えることができます。そのような存在であるバーベルを通して、自らと対話し、人間性を高め、内的平和を獲得することを目的とします。「筋トレしている自分、かっこいい!」と自分に対しての想いを持つことは大歓迎です。しかし、「筋トレしている自分、かっこいいでしょ?」と他者に対しての気持ちを抱く人は、残念ながら、今回は一緒にできません。あくまでも、自分との内的対話を通し、自分はどんな人間なのか、そしてどんな人間になりたいのか、そういったことを探求できる人が参加できるプロジェクトです。トレーニングの 3 原理と 5 原則を学び、トレーニングプログラムを教員のサポートのもと作成し、それに取り組みます。 |

【トライアウト内容】

- ・トレーニングの 3 原理と 5 原則を自分の言葉で説明できる。
- ・スクワット、デッドリフト、ベンチプレス、プルアップ、ショルダープレスのうち、1 つ以上の種目の適切な動きを説明/実演できる。
- ・参加したい理由を言語化でき、担当教員を説得できる。

【トライアウト方法】

Google チャットにて yudai.suzuki@jiyu.ac.jp にトライアウト希望の旨を連絡の上、日程を調整して実施する。

【トライアウト基準】

- ・連絡の際の表現が適切であるか
- ・トレーニングの原理原則を自分の言葉で表現でき、こちらの質問に答えることができるか
- ・種目の説明/実演が適切か
- ・参加したい理由を適切に表現できるか

こんな生徒を求む!!:

自らと対話する準備のある生徒、慎重な生徒、学ぶ準備のできている生徒

担当: 竹上尚子、属希美

タイトル: 平和を考える—戦争の歴史を学び、伝える—

概要:

- ・近隣の戦跡を巡ったり、体験者の話を聞いたりしながら、戦争の事実を学ぶ
- ・学園内にある慰霊碑や歴史資料からも学ぶ
- ・都内にある戦争資料館などの見学を行う
- ・平和を考える対話のプロジェクトに参加してみる など ⇒ 関心に応じて学びを広げ、学びとして知りえたことをワタシゴトとして考える その上で、「自分たちに何が出来るか」の手立てを考え、活動する 共に学びながら「伝える」活動を探っていきたい。

|                                                                                                                   |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| こんな生徒を求む!!:<br>約 80 年前、自由学園で学んでいた学生が戦争によって命を落としました。戦争を”ワタシゴト”と捉え、学び、伝える活動をしてみたいという人、大歓迎です! 平和のためにできることを一緒に考えましょう。 |
| 担当: 星佳輝                                                                                                           |
| タイトル: 平和な"五感"を探しに行こう!                                                                                             |
| 概要:<br>前期は「平和な音って何だろう?」という内容を進めていきました。音以外にも、人が感じられるものはまだまだある! 視覚、味覚、嗅覚、触覚と、それぞれについて平和とのつながりを考えていきましょう!            |
| こんな生徒を求む!!:<br>能動的に一緒に考えてくれる人、自分の考えを伝えられる人、このテーマに興味を持った人                                                          |
|                                                                                                                   |
| 担当: 菅野広樹、鈴木佑、寺尾恵理子                                                                                                |
| タイトル: 人口減少と共生                                                                                                     |
| 概要:<br>今日本は少子高齢化が進行し、人口減少の局面を迎えています。東京一極集中や地方の衰退、労働人口の減少などの問題点から、地域のあり方や外国にルーツを持つ人との共生について考えたいと思います。              |
| こんな生徒を求む!!:<br>社会への問題意識を持っている人、外国にルーツを持つ人との共生に関心のある人                                                              |

## 中等部・高等部

### 共生学 海ぶらプロジェクト

小松 愛香

共生学は、自由学園の掲げる共生共学の中の「人と人の共生」「人と自然との共生」「一人一人がかけがえない存在である」という意味での共生」という3つのキーワードを軸に展開される自由学園独自の授業である。2024年度後期に開講された共生学プロジェクトの事例の1つとして「海ぶらプロジェクト」について報告する。

#### 1.プロジェクト概要

本プロジェクトは、「2024年10月よりもプラスチックごみを減らそう」という目標を掲げ、2024年10月から2月まで、生徒17名、教員1名の計18名で活動した。本校は、学内に立野川が流れ、近隣を流れる落合川は平成の名水百選に都内で唯一選定されているなど、都内では自然豊かな環境であるとして、しばしば評価されるが、海に親しむ機会は少ない。一方で世界や日本に目を向けると海洋ゴミ問題は深刻である。普段海と離れて暮らす私たちも、海の抱える問題とは無関係ではないことへの気付きも狙いとした。プロジェクトは以下の内容で実施した。

| 日付        | 内容            |
|-----------|---------------|
| 10月16日    | 全体ガイダンス       |
| 10月23日    | 講座ガイダンス       |
| 10月30日    | 落合川ゴミ拾い       |
| 11月6日     | プラスチックワークショップ |
| 11月13日    | 学校の中のプラスチック探し |
| 11月27日    | 三番瀬フィールドワーク   |
| 12月4日     | ユニランタンワークショップ |
| 12月11日    | マイクロプラスチック計測  |
| 1月11日～13日 | 十三浜フィールドワーク   |
| 1月15日     | ひばりが丘駅周辺ゴミ拾い  |
| 1月29日     | マイクロプラスチック計測  |
| 2月5日      | アップサイクル万華鏡作り  |
| 2月12日     | まなコレワークショップ準備 |
| 2月19日     | まなコレワークショップ準備 |

#### 2.プラスチックワークショップ

海洋ゴミ問題の中でも特に、マイクロプラスチックをはじめとしたプラスチックゴミ問題は、多くの生徒も問題視しているが、プラスチックそのものが全て悪いように勘違いしがちである。本来素材としてのプラスチック(合成樹脂)は安定性の高い物質であり、真の課題は、その用途や処理方法にある。このワークショップでは、プラスチックそのものの性質や種類について知った上で、学内のプラスチック製品利用状況を調査し、「プラスチックでなくても良いもの」、「こんなにプラスチックでなくても良いもの」、「プラスチックだと良いもの」の3つに整理した。

#### 3.三番瀬フィールドワーク

11月27日に、千葉県船橋市にある、ふなばし三番瀬海浜公園とふなばし三番瀬環境学習館で校外学習を実施した。三番瀬は東京湾の最奥部に位置する約1,800haの干潟・浅海域だ。干潟を波打ち際、漂着物帯、砂浜の奥の3か所に区分し、1m四方の範囲をそれぞれ3か所、計9か所調査した。漂着物は5mm以上と5mm以下で分類し、回収した。後日学校で漂着物中のマイクロプラスチックを数えたところ、1,500個以上になった。漂着物は主に漂着物帯と砂浜の奥に多く分布し、特にマイクロプラスチックは砂浜の奥に多い傾向が見られた。この日は風が強く、生徒からは、風などの影響もマイクロプラスチックの広がりにも影響があるのではないかという意見もあった。



マイクロプラスチック採取の様子

#### 4. 十三浜フィールドワーク

1月11日(土)～13日(月)の2泊3日、宮城県石巻市十三浜地域で希望者対象の校外学習を実施した。十三浜は、東日本大震災以降、毎年わかめ漁師さんと交流の機会をいただいている地域だ。学園と縁のある土地でマイクロプラスチック調査をすること、2011年以降に整備された砂浜のマイクロプラスチック漂着量を調査することの2点が、この校外学習の目的だ。十三浜フィールドワークは、普段別プロジェクトに参加している生徒からも希望者を募り、中1～高1の生徒16名、引率教員4名で実施した。

参加者が初めて十三浜に行く中等部生中心ということ、フィールドワークをさせていただく上で、その土地の文化や歴史を知ること大切になりたいという思いから、震災遺構と伝承館の見学時間を設け、漁師の佐々木さんから震災当日のお話を聞く機会もいただいた。

マイクロプラスチック調査は12日(日)の朝に、北上白浜海水浴場で実施した。ここは津波で壊滅的な被害を受け、2019年に再開した場所だ。25cm四方の範囲を6か所調査したが、収集できたマイクロプラスチックは10個以下だった。砂浜上に漂着ゴミは見られたため、5年程度の期間では、ゴミは目視できる大きさにとどまることが分かった。

12日は、石巻・川のビジターセンターに行き、職員の方の指導を受けながら、北上川砂洲のゴミ拾いを実施した。ゴミ拾い後は、職員の平井和也氏から「海で起こっていること」をテーマに講義を受けた。

最終日の13日(月)は、石巻海さくらの宮城了大氏の指導を受け、渡波海水浴場のうみはま掃除を行った。漁業関連の海ゴミも多く、学校周辺や三番瀬でのゴミ拾いとの違いに生徒は驚いていた。また、砂の中から漁網やビニールゴミを掘り出す生徒もあり、震災から13年近く経ってもなお、震災ゴミが隠れていることに驚いていた。



北上川ゴミ拾い



うみはま掃除(石巻海さくら)

#### 【生徒の感想より】

・今自分勝手に海にゴミを捨てる人が多いことが分かり、拾っていて悲しくなった。海で自由に生きている生物の生活

に害することを自分たちはしたくない。

・一番印象に残っているのは、川のビジターセンターでの平井さんのお話だ。排水溝だと思ってたところは雨水溝だったり、地球温暖化によりサンゴが白くなったり、マイクロプラが私達人間や動植物の体の中に入っているかもしれないことなど、知らないことを知った。自分がどれだけこの広い海のことを知らなかったということに驚いた。

・石巻海さくらの方と海岸を掃除した。たくさんゴミが落ちていてびっくりした。ロープや小さなプラスチックなどもたくさんあったが、一人ひとりの努力で少しでもゴミの数を減らせると思ったから日常生活を見直そうと思った。

#### 5. まなコレワークショップ実施

3月のまなコレに向けて、これまでのプロジェクトの振り返りを行い、ワークショップで何をするか生徒たちと相談した。「小学生にも伝わるワークショップ」を目標に掲げ、マイクロプラスチックを使ったアップサイクル万華鏡づくりを実施することになった。数回にわたり試作を行い、当日材料にするマイクロプラスチックを砂の中から採取した。万華鏡づくりに使用する材料には、寮などで回収した使用済みコンタクトレンズケースを用いたほか、遊び終わったあとのゴミの分別方法を万華鏡本体に明記するなど、ゴミを減らす工夫も盛り込んだものが作られた。

当日はアップサイクル万華鏡キットを60キット用意し、在校生や入学希望者、保護者にワークショップを体験してもらった。参加者からは「完成した万華鏡を見てキレイだと感じたが、これがマイクロプラスチックゴミからできていると複雑な気持ちにもなった」という感想もあり、良い問題提起の機会になったと言える。

#### 6. まとめ

本プロジェクトが目標として掲げていた「2024年10月よりもプラスチックごみを減らそう」は、定量的に見ると達成できていない可能性がある。しかし、フィールドワークの翌週の共生学の時間に生徒発案で地域のゴミ拾いを急遽実施したり、万華鏡ワークショップ準備時に、容器包装プラスチックの過剰包装の多さについて生徒同士で話し合っていたりと、プロジェクトを通して参加生徒たちの意識や行動変容が見られた点は、大変有意義なものであった。

今後、共生学プロジェクトをきっかけに、生徒個人の探求活動やライフワークに繋がっていくことにも期待したい。